

## Special Essay

### いいね!

先端癌治療研究センター所長

山田 亮

タブレット、クラウド、ツイッター、フェイスブック、ビッグデータ、……。これらの言葉を目にしなない日はもはやない。好むと好まざるにかかわらず押し寄せてくるITの急速な進歩の波。はたして自分は大丈夫か？取り残されていないだろうか？ガラパゴス以前に化石化していないだろうか？

先日、80過ぎの母から携帯にメールが届いた。タイトルは「メール練習中」。孫に教えてもらいながらとはいえ、デコメ(デコレーションメール)を完璧に使いこなしている。何とか時代に取り残されまいと必死で取り組む母の姿には敬服する。

大学院生だった80年代中頃は図書館で英文雑誌の目次をひたすら眺め、自分に関係ありそうなものをコピーしまくっていた。それが留学先の米国のカンサス大学の図書館では3か月毎に更新のCD-ROMデータベースから自分で文献検索が可能になった。その頃、インターネットが民用に公開されたが、次に移ったハーバード大学ですらまだ開通していなかった。90年代に入り日本でもインターネットが普及し始め、米国NIHやMITの大型コンピュータのデータベースを利用できるようになった。今日のIT時代の幕開けである。

一頃世間を騒がせたミクシィ。日本におけるソーシャルネットワーク(SNS)の草分けだが、匿名性ゆえに不注意な書き込みが続出。未成年の学生タレントが飲酒を告白し、番組から降板されたり社会問題化した。今、爆発的に増殖しているのがフェイスブック。こちらは実名で表示される。世界中で9億人、日本でも1000万人のユーザーがおり、ビジネスの世界では必須アイテムだそうだ。

フェイスブックでは「いいね!」というボタンがある。気に入った記事があれば「いいね!」をクリックする。すると即座に、「AさんがBさんの記事をいいね!と言っています」というニュースとともにBさんの記事がAさんの友達に一斉に配信される。配信された友達Cがまた「いいね!」をクリックすればその友達へとさらに広がっていく。今や、新商品の開発において「いいね!」の連鎖がどれだけ広がるかで市場調査を行うのがトレンドだそうである

教員評価も学生からどれだけ「いいね!」をクリックされるかで決まる時代が来るのかもしれない。